

I 先行する恵みをいつも覚えて神に感謝したい。

1. 主イエスキリストの十字架の血の恵みによる私達の数えきれない罪の赦し。
主の復活による永遠の命の恵み。父なる神の大きな愛。
大切な一人子イエス様を、私達の罪の為にクリスマスに、そして十字架に与えて下さった。
御聖霊の交わり。御聖霊が私達の心の中に内住し、私達の罪を示し、
その罪の為に主が十字架にかかられた恵みを教えて下さり、
主を信じる信仰、信仰告白を与えて下さる。
2. 主をかしらとする教会を私達に与えて下さる。
主を中心に祈り合い、御言葉の恵みを分かち合い、支え合う交わりを与えて下さる。

II 教会のメンバーとして教会を建て上げて行く時の注意点。

1. 教会は、完璧な人々の集まりと誤解してはならない。そうするとつまずきやすくなる。
現実離れした過度な期待や過度な要求は、自分の心の中に、人への責め、
さばき（神の座に自分を置き、上から目線で非難する）、失望が生まれる。
口からは、悪口が出て来る。牧師も、宣教師も、教会員も皆、欠点があり、地上にいる間は、
まだ、心に罪が残っており、日々、神に罪を告白し、日々神に赦され、
少しずつ、主の姿に変えられている途上の者達の集まりである事を認め合いたい。
完全な教会はない。変えられ続け、成長し続ける教会である。もし自分の心の中に他の人の
欠点ばかりを責める思いに満ちる時、自分自身のも多くの欠点と罪がある事を深く覚え、
ただ神の憐み、愛で赦され続けている恵みを忘れないようにしたい。
それ故に聖書は、教会、クリスチャンに向けて、
「あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、
だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。
主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい」
（コロサイ3:12, 13）と言われている。
※主が今日まで、赦し続けておられる恵みをいつも覚え感謝したい。
2. 教会のメンバーとなって、教会の欠けが見えた時、さばく者、責める者、非難する者ではなく、
祈り支える者になれるように祈りたい。
神は、私達を、教会の欠けを責める者ではなく、その欠けを祈りつつ自分自身が補い支える為に
教会のメンバーとされることを認め感謝したい。
欠けを指摘するだけでなく、「私は、その欠けを補うために何が出来るでしょうか？
私にも欠けがある事を忘れない謙遜な者にして下さい」と祈る人は幸いである。
各教会には違いがあり、主にある多様性がある事を認めたい。
多様性は、キリストの体である公同の教会の豊かさである。
御言葉がはっきり言っていない自分が持っているこだわりは、自分の領域では保って良いが、
そのこだわりを他の人に、教会に強要してはならない事を認める人は幸いである。

「それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい」ローマ14：5。
聖書が明確に言っていない事について、自分の心の確信を持って良いと同時に、
他の人との違いも認める。

Ⅲ 聖書に記されている主にある愛から出る補い、支え合い。

1. 「あなたがたは一度ならず二度までも物を送って、私の乏しさを補ってください」
ピリピ4：16
2. 「私たちは、あなたがたの顔を見たい、信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています」
Iテサロニケ3：10。執り成しの祈りは、大きな支え。
3. 「今あなたがたの余裕が彼らの欠乏を補うなら、彼らの余裕もまた、あなたがたの欠乏を補うことになるのです」IIコリント8：14。
「与えなさい。そうれば、自分も与えられます」ルカ6：38
4. 「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい」
ガラテヤ6：2。この御言葉は、次の御言葉とのバランスが大切。
「人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです」6：5
※「協力し合う分」と「それぞれが自分の責任としてやるべき分」がある。
5. 「からだの中に分裂がなく、各部分が互いにいたわり合うためです」Iコリント12：25。
神が英知をもって造られた私達の体の各器官は分裂がなく、互いに合いに支え合っている。
そのように私達も互いに一致し支え合いたい。
6. 「気落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことによって、私たちを慰めてくださいました」
IIコリント7：6
7. 「あなたがたは、私の言い分を良く聞け。これをあなたがたの私の慰めとしてくれ」
ヨブ21：2
「ああ、あなたがたが全く黙っていたら、それがあなたがたの知恵であったらうに」
13：5
「聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい」ヤコブ1：19
聞くの原語の名詞形の意味は、傾聴。
お互いいたわり合い、支え合う為に、語るには遅く、怒るには遅く、お互い相手の言葉と気持ちを
耳と心で聴く事が出来ますように